

I 先行する神の恵み

1. 「イエスはご自分の肉体（十字架で主の肉体が裂かれ聖い血が注がれた）という垂れ幕（神殿の至聖所と聖所を仕切る幕が裂かれた）を通して、私たちのために、この新しい道（主の恵みを通して神に近づける道）を開いてくださいました」：20。
2. 「また私たちには、神の家（聖所、神の臨在される所）を治める、この偉大な大祭司（神と人の本当の仲介者キリスト、とりなし手）がおられる」：21

II 先行する神の恵みへの応答

1. 神の喜ばれない応答

「もし私たちが、真理の知識を受けた後、進んで罪にとどまり続けるなら、もはや罪のきよめのためにはいけにえは残されておらず、

ただ、さばきと、逆らう者たちを焼き尽くす激しい火を、恐れながら待つしかありません。

モーセの律法を拒否する者は、二人または三人の証人のことばに基づいて、あわれみをうけることなく死ぬことになります。

まして、神の御子を踏みつけ、自分を聖なるものとした契約の血を汚れたものと見なし、恵みの御霊を侮る者はいかに重い処罰に値するか分かりますでしょう。

私たちは、『復讐はわたしのもの、
わたしが報復する。』

また、

『主は御民をさばかれる』

と言われる方を知っています。

生ける神の手の中に陥ることは恐ろしいことです」：26－31

2. 神の喜ばれる応答

- ①「心に血が振りかけられて（私達が、主の十字架の血が、私の罪の為に流されたと信じる時、霊的に主の十字架の血が私達の罪深い心に振りかけられ、きよめられる）、邪悪な良心をきよめられ（主の十字架の血には聖なる力があり、私達の邪悪な良心をきよめて下さる）、からだをきよい水で洗われ（主を信じ、信仰告白としての洗礼を受ける）、全き信仰をもって真心から神に近づこうではありませんか」

：22。※

「血を鴨居と二本の門柱に塗り付けなさい。…主はエジプトを打つために行き巡られる。しかし、鴨居と二本の門柱にある血を見たら、主はその戸口を過ぎ越して、滅ぼす者があなたがたの家に入って打つことのないようにされる」（出エジプト記12：22，23）。

- ②「約束してくださった方（神）は真実な方ですから、私たちは動揺しないで、しっかりと希望（主の十字架の血による完全な赦しと救いの希望）を告白し続けようではありませんか」：23。

信仰告白の洗礼を受けても、信仰告白を続ける者になれるように祈りたい。

- ③「また、愛と善行を促すために、互いに注意を払おうではありませんか」：24。

愛と善行を生み出すのも御霊の賜物。

「御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です」（ガラテヤ5：22，23）。

日々、自分の罪を告白し、御霊を心に満たして下さるように祈ろう。御霊は、真の愛と善行を与えて下さる。

- ④「ある人たちの習慣に倣って自分たちの集まりをやめたりせず、むしろ励まし合いましょう。その日（主の再臨）が近づいていることが分かっているのですから、ますます励もうではありませんか」：25。

実際に、このヘブル人の中に教会の集まりから離れる人々がいた。いつの時代も、今も同じである。悪魔は、いつも、何とかして、クリスチャンを主の教会から、離れさせようと懸命である。私達も油断してはならない。今まで教会生活が守られているのは、奇蹟的な事であり、神の支え、兄弟姉妹の祈り、励まし、交わりの恵みである。

互いに目を覚まして祈り合おう！

教会から遠ざかる原因は＝

i 怠惰や倦怠感。

ii 教会の礼拝、交わりから計り知れない恵みを受けているのに、それを自覚せず、感謝もしない心。

iii ある人との人間関係の悪さ。これは、おそらく、経験しない人はいない。なぜなら、クリスチャンもまだ、完全な人ではなく、お互い、皆欠点を持っているから。

過去の心の傷がまだ癒されておらず、自己受容ができていないので、他の人に攻撃的になる自分がいる。まず、自分の心の傷が癒されて、自己受容ができるように祈りたい。

教会の人間関係で悩んでも、皆が、教会から離れるわけではない。なぜか？その辛さの中でこそ、主の愛や自分自身の罪や主の愛で赦す事、主の愛で赦されて来た恵み、自分の力では赦す事は難しい事、しかし、主は赦す愛を下さる恵みを学ばされ、成長させられる。

この成長は、孤立からは生まれず、難しい人間関係を通しての神の訓練の中で与えられる。

⑤「励まし合いましょう」：25。

共に集まり礼拝する時、私達は、賛美、御言葉から大きな励ましを受ける。霊的に強められる。礼拝後の交わり、御言葉を分かち合い、祈り合う時、励まされる。

薪が燃えていても、一本だけだと消えやすい。しかし、火が消えかけた薪を集めると、また燃え出す。

私達も同じである。いつも一人だけでいると信仰の火は消えやすい。しかし、共に集まり、礼拝し、互いに交わり、祈り合う時、信仰の火は、また燃える。

「励まし合う」の原語の意味は、「そばへ呼ぶ、呼び寄せる、招く、好意を以て話しかける、優しい言葉をかける」。

的外れの、上から態度で接しない。励ましとは、落ち込んでいる人に一方的に「頑張りなさい」と言う事ではない。悩みに寄り添い、語る前に、聴く事が大切。気持ちを受け留める。

聞くのに時があり、語るのに時がある。

悩んでいる人の話だけではなく、聴く側の人の弱さも打ち明け祈り合う。

示される御言葉があれば、共に読み味わう。そこに、主を中心とした真の励まし合いがある。

⑥「その日（主の再臨）が近づいていることが分かっているのですから、ますます励もうではありませんか」：25。主

が語られた主の再臨の前兆＝「あちこちで飢饉と地震が起こります」マタイ24：7。

「大きな地震があり、方々に飢饉や疫病が起こり、恐ろしい光景や天からの大きなしるしが現れます」ルカ21：11。

主の再臨の日は、人には分からない。しかし、このヘブル人の手紙が書かれてから、2千年が経過し主の日が近づいている。何時かは分からなくても、主がいつ再臨されても良いように、共に集まり、素晴らしい神を礼拝し、互いに交わり、励まし合い、御言葉を分かち合い、祈り合いたい。

まだ主を知らない家族、知人、友人に主の救いを伝えたい。

「目を覚ましていなさい。あなたがたの主が来られるのがいつの日なのか、あなたがたは知らないのですから」マタイ24：42。

「万物の終わりが近づきました。ですから、祈りのために、心を整え身を慎みなさい。何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。」Ⅰペテロ4：7、8。